

大石小学校 学校だより 3月号



おおいし

「考える子 思いやりのある子 がんばる子」

令和5年3月1日発行
上尾市立大石小学校
住所 上尾市小泉9-28-2
電話 048-781-0342
発行者 校長 増田 司

「ヘリコプターペアレント」という言葉をご存知ですか？

ヘリコプターのように、子供の上空を飛んでどこにでもついてまわるという比喻で使われているそうです。過度に子供に干渉する親子関係のことをいうのだそうです。干渉しすぎることで、自分で決断できない子供になることもあるようです。以下は立正大学社会福祉学部子供教育福祉学科教授、岡本依子先生が、子育てに関するインタビューで語っていた内容の一部です。

「ヘリコプターペアレントは、子供のためを思って子供に関するあらゆることに、口出し手出しをしてしまう親のことです。しかし、子供にも幼稚園や保育園、学校など社会があり、過度に口出しをすると子供の周囲に迷惑をかけていることもあります。子供に関心を持って、関わろうとするのは問題ありません。問題なのは、子供への関心が学校でウチの子がいじめられてないか、先生はちゃんとウチの子を見てくれているといった目先の関心にとどまってしまうことです。目先のことばかり気になると、子供にどのように成長してもらいたいかという中長期的な展望（友だちとのいざこざを自分で解決できる、自分から先生に必要なことが伝えられるようになる）が見えなくなるので、子供のためにはなりません。子供を守りたいがために、子供の周囲に対して疑心暗鬼になってしまうのです。これは、親にとっても苦しいことです。周囲を信頼して、なにより自分の子供の成長する力を信じることが重要です。

『子供が損をしているのではないか』『親がいないところで何をされているのか』という、感覚にとらわれているようであれば、少し深呼吸をして、全体が見えているかどうかセルフチェックしてみるといいかもしれません。「日々成長する子供とともに、子育ての心地よいバランスも変化します。もちろん、親も成長します。『腹を据えて楽しむ度胸』のようなものが親は親で大切かもしれません。

私はヘリコプターペアレントということばは初めて聞きました。確かに自分の子供の言うことをすべて信じて、相手を攻撃しているということを時々聴きますが、みなさんはいかがですか？私は自分の子育てを振り返ったとき、休日も仕事ばかりで逆に放任し過ぎたかな？とちょっと反省しています。過干渉にならず、放任にならず、適切な関わりを持って子供を教育するのが良さそうです。

今の子供たちに必要なのは、これからの変化の激しい社会の中で、困難な課題に直面したときにどう判断し、どうやって乗り越えていくのかということです。そのためには困難に負けない精神力や乗り越えるための思考力・判断力を身につけさせることが大切ですね。